

第3回花巻市行政評価委員会会議録（しごと部会）

1 開催日時

平成27年7月30日（木） 午後3時30分～午後4時50分

2 開催場所

花巻市花城町1-47 まなび学園3階 第3学習室

3 出席者

委員 6名

影山部会長、伊藤委員、小山田委員、折居委員、瀬川委員、高橋委員
事務局、施策主管課

4 課題及び報告事項

◆施策：事業分野の拡大

- ・ 施策の目指す姿は「新分野や成長分野への進出を盛んに行っています」であるが、施策を見ると成長分野のみで新分野は入っていないようだが？
→ 新分野は今後の課題である。
- ・ プロジェクトマネージャーの派遣はなかったのか？
→ 企業訪問等は行っているが、ニーズがなかったようだ。
- ・ 直近の補助金交付事例は？
→ 食品が多く、具体的には、漬物、土産物関連など。医療福祉分野では医療機器。
- ・ 補助対象事業ごとの内訳は？
→ 製品・技術開発が1件、調査・販路拡大が1件、重複が2件。
- ・ 補助終了後の事業の継続性のチェック体制はあるか？
→ なし。
(⇒これに対し、補助金が終了すれば事業が続かないようでは困るので補助終了後のチェックが必要ではないか？との意見あり。)
- ・ 成果指標「新たに市の支援により成長分野に取り組んだ件数」の目標値がずっと8件だが、増加は考えられないのか？
→ 事業の継続性を考え、補助金に頼るだけでなく、プロジェクトマネージャーによる支援に力を入れていきたい。
- ・ 金ヶ崎町の例では、自動車分野で半径50km以内での部品調達率向上を目指しているようだが、花巻市ではどうか？
→ 自動車の部品などは、未だ愛知県から運んだほうが安いという状況で、競争力で勝てない。部品ではなく、メンテナンスを含む製造装置に参入している状況。
- ・ 成果指標の実績について、平成23年度（7件）、平成24年度（12件）と高い理由は？また、平成24年（12件）→平成25年度（2件）と大きく下がった理由は？

- 景気の良いときには新分野に手を出さない傾向があるが、後ほど確認する。
 - ・ 市内企業の分野ごとの分布は把握しているか？
- 完成品を作っていないため、食品以外は難しい状況である。
 - ・ 成果指標の達成状況において、「成長分野への参入意欲は低い」という分析がなされているが、市が強いと思われる食品や福祉など、産業構造に合致した独自性のある分野にターゲットを絞って参入させる方法は考えられないか？
- 間口は広くしたいという考え。単独企業では困難な場合、グループ化による参入もある。
 - ・ 採択基準に金融機関の審査はあるのか？
- 補助金が終了したら継続できないようでは意味がないため、平成 27 年度から開始した。

◆成果指標について

- ・ 施策の目指す姿「新分野や成長分野への進出を盛んに行っています」からいって、「成長分野」だけでなく「新分野」・「新規参入」等の表現があれば良いのではないか。
- ・ 補助件数とプロジェクトマネージャー派遣件数の内訳を示すべきではないか。
- ・ 事業が継続しているかどうかの指標も必要ではないか。
- ・ 成果指標の達成状況が D とのことだが、前述のとおり指標の内訳を示す等により評価は変わるのではないか。

◆事務事業について

- ・ 新規の補助金交付だけでなく、補助終了後のフォローを事業化してはどうか。公金を支出する以上は事業終了後もチェックが必要だし、補助金がなくなればストップしてしまうようでは事業では意味がない。
- ・ 補助事業の成功事例を紹介する場を設けることで、補助制度のPRや次世代の勉強の場となるのではないか。
- ・ 企業にニーズを掘り起こさせるだけでなく、市民、特に若い人からアイデアを出してもらって、市が企業に示す事業があっても良いのではないか。

◆施策の総合的な評価について

- ・ 達成状況が低い要因は、企業ニーズの把握やマッチングがうまくいっていないからではないか。たとえば、岩手県では数千万円規模の補助があるが、その規模でなければ意味を成さないと考える企業を訪問してもうまくいかない。花巻市の補助金の規模や使い勝手に合った企業や事業を掘り起こす必要がある。
- ・ 「成長分野」の枠が大きすぎて、全国どこでも同じで花巻市の独自性がないように感じる。花巻市の産業構造や、地理的優位性を活かして、もう少し分野を絞ることはできないものか。
- ・ 「成長分野への参入意欲が低い」ことが課題ではないのではないか。⇒前述のように要因を分析のうえ、「成長分野への参入意欲を醸成していく必要がある」等表現の工夫が必要。

◆記載内容について

「成果指標について」の意見と「施策の総合的な評価について」の意見の表現を追加

◆その他

- ・プロジェクトマネージャーにもっと活躍してほしい。補助金交付にあたり、プロジェクトマネージャーの指導を要件付ければ良いのではないか。または、補助金交付の次年度以降のフォローに活用すれば良いのではないか。
- ・企業訪問の実績も示したほうが良いのではないか。
- ・花巻市内の企業にとっては新製品の開発は難しく、交通網の強みがあることから販路拡大の方が向いているのではないか。

第3回行政評価委員会会議録（暮らし部会）

1 開催日時

平成27年7月31日（金） 午前10時00分～午前11時30分

2 開催場所

花巻市花城町1-47 まなび学園3階 第3学習室

3 出席者

委員 4名

鈴木部会長、尾美委員、戸来委員、高橋委員

事務局、施策主管課

4 課題及び報告事項

◆施策：危機管理体制の強化

- ・ 施策への貢献度の評価が厳しいのでは？
→ 目標値どおりでB、それを上回ればA、下回ればCとなっている。
- ・ 例えば生活再建住宅支援は被災者の意向もあり、自治体側ではどうしようもない。目標を下回っているから一概にC評価とするのは厳しいのではないか。成果方法を目標値のみで評価するのはいかなものか、事務局で改善を検討してほしい。
→ 目標値の達成度が「成果」として客観的に表れ、担当課における評価が「直結度」として主体的に表れている。
- ・ 自主防災組織は自治会ごとか？
→ マチマチである。行政区が小さいため、複数の行政区が集まって一つの自主防災組織を形成しているところもある。
- ・ 自主防災組織結成数が26年度目標値に対して実績値が約半分となっている。26年度までの累計であれば概ね目標値どおりだろうが、単年度であれば目標値に満たない。集計はどのように行っているのか？達成度も「目標値より低い」になるのではないか？
→ 組織率は90%を超えているが、地域によっては必要性を感じていないところも多い。1年の内に組織数を増やすことは難しく、単年度でみると実績値は小さくなってしまう。石鳥谷町、大迫町は100%の組織率。東和町も残り1つである。組織されていないのは、花巻の町中の行政区である。
成果指標の全てを総合的に判断しているので、成果指標の1つが目標値に達していなかったとしても、成果指標の達成度が「目標値より低い」とはならない。
- ・ 防災ラジオ貸与数の目標値が1,000箇所に対して実績値330箇所となっている

るが、どのように考えているか？

→ 土砂災害危険区域が存在する行政区の世帯のみを対象に案内をしたのだが、ほとんど応募がなかったので1件1件に通知するやり方に切り替えることとした。案内をすればすぐに応募があるものと考えていた。

・ 臨時災害FM放送受信環境整備は平成27年度以降の計画はないのか？

→ コミュニティFM難聴地域にFMアンテナを設置したが、それでも聞こえづらい地区に対して、簡易アンテナの設置について個別に相談に応じる予定でいる。

この他、防災ラジオも災害危険区域以外の人たちを対象に5,000円/台として貸与することを始めた。こういうことで市民の注意を引くことができると考えている。

◆成果指標について

- ・ 成果指標が1つしかないのはさびしい感じがするので、他にも何かしら評価できる指標を設けてほしい。
- ・ 市民アンケートに項目を設けるのもひとつではないか。
- ・ 現状では概ね妥当である。

◆事務事業について

- ・ 今ある事業を伸ばしていけばいいのではないか。
- ・ 成果がB判定やC判定だった事業をAにできるように努力してもらえれば。
- ・ 今後の方向性として振興センターの防災倉庫の設置を挙げていることから、「防災倉庫整備事業」のような事業も新たな事業に追加できるのではないか。

◆施策の総合的な評価について

- ・ 問題点、課題が明確になっている。

◆記載内容について

- ・ 成果の評価方法として、適切かどうか検討してほしい。数値に表すことができない点もあることから、機械的な方法でも構わないが、事情等も考慮して判断できる評価方法の方が望ましい。
- ・ 目標値の達成度が「成果」として客観的に表れ、担当課における評価が「直結度」として主体的に表れているようだが、もう少し評価方法について検討してほしい。

第3回行政評価委員会会議録（人づくり・地域づくり部会）

1 開催日時

平成27年8月7日（金） 午後1時30分～3時00分

2 開催場所

花巻市花城町1-47 まなび学園3階 第1会議室

3 出席者

委員 5名

堀籠 部会長、福盛田 副部会長、中村 委員、木村 委員、佐々木 委員
事務局、施策主管課

4 課題及び報告事項

◆施策：コミュニティ会議の基盤強化

- ・コミュニティが出来て8年になるが、成果（課題解決した件数の割合）はもう少し上がってもいいのではないか（80%を切っている状況）？この状況で成果指標の達成度A判定は（目標値を上回っているとはいえ）ちょっと無理があるような気がする。
 - ・課題解決や地域づくりなど、各地域で求めるものは違うはず。各地域が求めるもので目標を設定しないと成果は測れないのではないか？振興センター職員も引き上げられ、先が見えないという不安な面もあると思う。
- 各地域で求めるものは違うのは委員おっしゃるとおり。過大解決に向けて話し合う場にファシリテーターが存在するよう養成を考えたいと思っている。また、それぞれの地域課題の解決に向け、市としても地域にもっと入っていく必要があると思っている。
- ・地域づくりについてはハード事業だけではなく、どうすれば市民が安心して暮らせるか、また、幅広い世代の参画につなげられるか、という部分に視点をおいて評価していくべきと思う。
 - ・コミュニティ会議の拠点となっている振興センターは、元は公民館であった。公民館は社会教育法に基づき設置していったものであるが、振興センターとしても問題はなかったのか？
- 花巻以外の市でも名称が変わっているところはある。社会教育・生涯学習を行う場であれば問題はない。
- ・本来コミュニティは市と対等なものだが、花巻の場合、公民館というベースを使った行政が作ったコミュニティとなっている気がする。交付金については、必要なくらいあれば良いはずだが、配分されることで不要なものまで整備していない

か。

- ・コミュニティについては、そのコミュニティのリーダーによって地域づくりのレベル・充実度が左右されると感じている。
- ・事務事業評価シートの活動指標に記載されている「コミュニティ会議への交付金交付件数」は、指標として扱う必要がないと思うが。

→そうですね。

◆成果指標について

- ・今の指標はそのまま、違った見方で他の指標もほしい。
- ・常に新しいことに取り組み、取り組む内容を参考に新たな指標を考えてほしい。
- ・目標値は75%ではなく80%はほしい。少しずつ上げていくべき。
- ・地域で課題解決した割合が増えていっており、これを交付金の成果と言っているが、交付金は毎年同じ額であり、違和感がある。

◆事務事業について

- ・必要以上に行っている事務事業はない。
- ・市の関与の低下した事業はないが、状況の変化に対応した事業がない。これを考える必要はある。特に、人づくりにおいて、個人を尊重し、その個人を盛り上げ「地域に関わってもらえる」ソフト事業が大事。
- ・現在の事業は目指す姿に貢献しているが、状況の変化に対応した事業への取り組みも大事である。

◆施策の総合的な評価

- ・施策の目指す姿を実現するための問題点・課題が明確になっていないと思う。振興センターの位置づけが見えてこない。これを明確にしないと、課題も浮かび上がらないのではないか。市民の望むものに目を向ける必要がある。

◆記載内容について

- ・交付金の額は分かるが、具体的にコミュニティが交付金を使って何を行ったのかが分からない。
- ・事務事業評価シートの活動指標「コミュニティ会議への交付金交付件数」は不要。